



ピアノミニコンサート

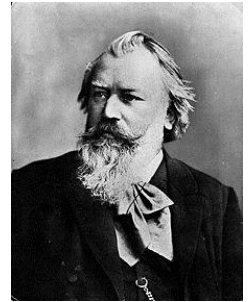
～PROGRAM～

♪ 4つのワルツ 作品39

ブラームス作曲

第1番 口長調 第2番 ホ長調 第3番 嬰ト短調 第4番 ホ短調

全16曲からなるこのワルツ集作品39は、ウィーン生活3年目にあたる、1865年1月に作曲された。当時ウィーンでは、ヨハン・シュトラウスが「ワルツ王」と呼ばれ全盛をきわめており、ワルツはシュトラウス一家の繁栄で、完全に娯楽的な踊るための音楽と考えられていた。そこで、絶対音楽の推進者とされていたブラームスが、家庭的で気楽なワルツを作曲したのである。シュトラウスのワルツに比べると、ブラームスのワルツは規模の小さな小品であり、性格的にも素朴でワルツの前身であるレントラーに近い味わいをもっている。



♪ ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 作品27-2 「月光」

第1楽章 Adagio sostenuto 第2楽章 Allegretto 第3楽章 Presto agitato ベートーヴェン作曲

31歳のときの作品で、弟子であり恋人でもあったイタリアの伯爵令嬢ジュリエッタに捧げられた。ジュリエッタは当時17歳、年の差以上にベートーヴェンが苦しめられたのは身分の差であったという。「月光」という標題は彼の死後1832年にルートヴィヒ・レルシュタープが第1楽章について「ルツェルン湖の月光の波に揺らぐ小舟のよう」とコメントしたことに由来している。



♪ 夜想曲 第13番 ハ短調 作品48-1

ショパン作曲

1841年ショパン31歳の円熟期の作品。ジョルジュ・サンドとのノアンでの生活の中で作曲され、心身が充実していた時期の作品。左手のアルペジオの伴奏にのって、右手が甘美で感傷的な旋律を歌うノクターンは、聴く人を恍惚状態に陥れ、有無も言わずその世界に引きずり込んでしまう魔力を放っているようです。このノクターンもピアノの詩人としての特異な才能が最もよく現れ、華やかさとたくましさを感じられる作品です。



♪ スケルツォ 第2番 変口短調 作品31

ショパン作曲

スケルツォ (Scherzo) とは、楽曲につけられる名称の一つで、イタリア語で「冗談」を意味する。1837年に作曲、同年に出版されたピアノ独奏曲。作者のスケルツォ作品としては最も有名で、優雅さやロマン的な転調などで人気を集めている。

